

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2971400201		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム グレース (東)		
所在地	奈良県生駒郡平群町越木塚336-1		
自己評価作成日	平成23年11月24日	評価結果市町村受理日	平成24年3月10日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当ホームは自然に恵まれた高台にあり、四季折々の風景をご利用者様に楽しんで頂いております。又、隣接する同法人が運営する特別養護老人ホームもあり、重度化への安心へと繋がっています。介護保険法等の関係法令に基づき、利用者様が可能な限りその有する能力に応じ、自立した日常生活を営む事ができるよう、家庭的な環境のもとで本人の意思及び人格を尊重しながら、日常生活の介護を行うものとする。又、気軽に外食や買物に出かけられる様に日頃から支援させて頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2971400201&amp;SCD=320&amp;PCD=29">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2971400201&amp;SCD=320&amp;PCD=29</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該事業所では、ユニットごとに職員や利用者が意見を出し合う機会を作り、良い環境に良いケアがあることや、利用者の思いを大切にしようとする人らしい生活の実現、笑顔での寄り添いなど多くの声をまとめて新たに理念を見直されています。隣近所に住宅が無い中で地域と寄り添い暮らし続けられるよう、事業所では積極的に地域行事に出かけています。老人憩いの家で行われる高齢者の交流会や、口腔ケアについての勉強会などにも参加し、学びの機会も持っています。また、運営推進会議への市職員などの参加を得るために、都合のよい日の調整を具体的に働き掛けを行い出席を得ています。利用者と共に笑顔で日々が過ぎせるよう、家族の協力やボランティアを受け入れにより、日々の外出を楽しんでもらう等、笑顔がみられるような支援に努めています。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年1月26日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護現場での勤務が初めての職員も多い為、グループホームの在り方や理念を職員で話し合い考えた上で理念に沿った支援を心がけている	経年の中で利用者の状況の変化もあり、改めて理念をユニットごとに作成しています。職員や利用者も含めて思いを出し合い検討して作られた理念は、ユニットごとに玄関に掲示し確認し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限り、納涼会や敬老会、その他の催しには、地域のボランティアさん、民生委員の方をお招きして交流を図る	隣近所に住宅がない中で、地域の老人会行事や勉強会に積極的に出かけ、交流を図っています。幼稚園や小学校の運動会や訪問を受けるなど子ども達との関わりを育んでいます。また、事業所の納涼会などには地域の方々に声を掛け参加頂くように働きかけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での集会等にもできるだけ参加して、認知症の理解に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の活動報告、質疑応答を含め、行政、他施設の意見を聞くことにより今後の課題に役立てている	民生委員や地域包括支援センター職員、家族、同業の管理者などの出席で運営推進会議は行われています。スライドでホームの様子を伝え、地域の情報を得たり、同業者からのアドバイスなど活発に意見交換が行われています。外出機会を増やすことや下肢筋力増加への要望があり職員間で検討し改善企画が検討されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課や地域包括支援センターとも相談、協力体制を取っている	市職員の運営推進会議への参加依頼の結果参加が実現し、事業所の様子への理解につながっています。制度への質問や疑問など何かあれば出向いて相談したり、入居状況の報告を行うなど相互理解に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会での知識を深める事により、意識向上とサービスに努めている	職員会議に勉強会を取り入れ、職員の身体拘束についての理解を深めています。言葉かけなどについても職員間で注意し合うようにしています。病的に転倒の危険がある方の拘束が時間帯によって行われる事がありますが、絶えず職員間で検討し行わない方向での話し合いを重ねています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだ事を勉強会にて発表の場で知識を共有している		

グループホーム グレース（東）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当グループホームでも後見人制度を利用されている方もおり、支援に努めると共に研修会にも参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解して頂ける様に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事開催時等にアンケート用紙を事前配布し、意見、要望を聞くようにしている	年2回のアンケートや家族会、来訪時に意見や要望を聞いています。家族との信頼関係があれば、共に事業所の改善への意見が出ると考え、その信頼関係作りに向けて利用者支援が大切と位置付けています。家族からは着替えへの配慮など個別の意見であっても、職員間で検討し利用者全体への支援に結び付けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談をできるだけ行い、個々の意見を聞き取り入れるように努めている	連絡帳を作成し職員の気づきや提案などを書き込み職員間で共有し、検討課題としています。職員の入浴時間への提案から、ゆっくりと入浴が楽しめる入浴者数を検討するなど、出された意見は職員間で検討し改善に向け取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員から正職員への雇用制度も行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修の参加に積極的に取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設の運営推進会議や見学等への参加も積極的に取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者を決め、個々の不安や要望を把握し、全職員と話し合いをすることにより、解決していく様、努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に意見や希望を聞き入れていサービス向上に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや意見を取り入れ、必要に応じてカンファレンスやアセスメントを行い対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい満足した生活が送れる様に日頃から関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちや理解を深めながら支援をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人達との面会や外食等は積極的にすすめている	美容院や百貨店での買い物など昔馴染みの所を利用しています。昔住んでいた家を見に行ったり、墓参りや法事への参加などは、家族と連携を取って支援しています。また趣味の絵手紙を娘に送るなど関わりの継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけフロアでのレクリエーションや散歩に参加する事により利用者同士が馴染みを持てる関係作りを支援している		

グループホーム グレース（東）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅でのターミナルを迎えた方に対しても、馴染みの職員が面会に行く等しており、その際、家族の悩みや相談に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人の意向に沿える様、支援している	入居時には家族から様々な情報を得たり、以前の利用事業所からの情報などを基に意向の把握に繋げています。困難な場合は、日々の支援の中で記録された生活状況や表情などを基に職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけ今までの生活に沿った支援に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の日頃の状態を把握し、全職員と共有した上で支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員との会議の中で、個々の生活歴や生活習慣を話し合い、参考にしている	事前に聞き取った利用者や家族の思い、担当者をはじめ職員の意見を基に、介護計画が立てられています。時にはサービス担当者会議に栄養士に参加を依頼するなど、多角的な見地から検討されています。3ヶ月ごとに評価し状況に変化がなければ6ヶ月ごとに見直しています。必要に応じて医師や看護師の意見など計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や生活状況を通じ、職員間で話し合った上で介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の馴染みの美容院や、喫茶店にも出向くように努めている		

グループホーム グレース（東）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限り、生き甲斐を持てる支援に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は個人の希望に沿える様努め、連携、協力体制を築いている	希望に沿ったかかりつけ医の継続を支援していますが、事業所への往診が可能な医師も増えています。また、協力医療機関の医師による認知症はじめ誤嚥などテーマを決めた勉強会もあり、職員の意識アップに繋がっています。歯科や専門医との連携や看護職員の日常的な健康管理など医療体制が構築されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に相談しながら連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連携を図り、なおかつ家族の希望も大切にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に於いては、家族様と何度も話し合いを重ね、希望にそった支援を心掛けている	入居時には事業所の出来ることなどを伝え、重度化の中で医師、家族事業所三者で何度も話し合いを重ねて対応しています。職員は、看護師や法人から看取りについて、初歩的な話から病気理解、生と死について等多岐にわたって援助を得て学びつつ看取りの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急受講し、マニュアル各自送付済		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は定期的を実施している	3ヶ月に1度昼夜を想定したり、あるいは法人と合同で防災訓練を重ねています。それぞれに消防署も立ち会いがあり、繰り返し訓練する中で習熟出来るようにと考えています。隣接する住宅はありませんが、運営推進会議で報告を行ったり、応援の依頼をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の尊重にスタッフ全員で取り組んでいる	人格の尊重を基本に笑顔での対応やスキップなど利用者との信頼関係が最も大切であると考え支援しています。堅苦しくなり過ぎないことや節度をもった声掛けを心がけ、利用者本人に決定をゆだねることを大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望する生活をいて頂ける様、支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ個人の意見や希望に沿った支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買物レク等を通して、自分の気に入った洋服や化粧品を購入してもらえる様に心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	佃煮や嗜好品等は、個人購入してできるだけ楽しみの持てる食事時間を持てる支援をしている	基本的に食事の提供は隣接する法人の施設から運ばれてきます。時々、食事作りやおやつをレクリエーションと位置づけ、食べたいものを聞き、買い物から一連の作業を利用者と共に作っています。希望を聞く中で作れないものなどは出前にしたり、ボランティアの援助でピザ作りに挑戦したり、食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護職と連携を取りながら、必要な栄養、水分量は確保できるよう支援している。又、食事量の少ない利用者様に関しては、家族様から好物等を聞き食卓で提供できる支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの大切さは、職員間でも勉強会を開く等して知識を身につけた上で、口腔ケア支援を行っている。		

グループホーム グレース（東）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄を大切に考え、個人に合ったリズムを把握した上でトイレ介助を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、サインを見逃さず個々に合った排泄の支援を行うようにしています。重度の利用者が支援の結果おむつ被れの改善や離床に至ったり、夜間おむつ状態であった方が声かけの結果紙パンツになるなど、自立に向けた支援の結果がみられています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やヨーグルト、バナナの摂取で自然排便を心がけている。又、週2回は玄米食を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	年々介護度も高くなっているため、毎日の入浴人数を少人数制で個人個人ゆったりと入浴して頂いている	出来るだけゆったりと時間を取った入浴支援を心がけています。週2～3回、午前中を基本としていますが、要望があれば出来るだけ合わせる方向で検討し支援しています。ゆず湯や入浴剤で温泉気分を楽しむこともあります。拒否傾向の方には時間を変えたり工夫して入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠して頂ける様、環境を整える支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医や看護師、薬剤師等とも連携をもち支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各職員が利用者様の生活歴等をアセスメント、家族様から聞く等して個人に合わせた支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ希望に応じて買物や美容院等に行ける様に支援している。又、外出レクリエーションにも力をいれている	天気の良い日には事業所の周辺を歩いたり、玄関前のベンチで外気浴を楽しんでいます。毎週の買い物や希望に応じて喫茶店にいたり、季節の外出は、初詣に始まり、梅や桜の花見やミカン狩りなどを楽しみに、時には家族の協力も得ながら外出支援をしています。	



グループホーム グレース（東）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方にはお財布を所持してもらい、買物時にはそこから支払いを行ってもらっている。又、管理能力に欠ける方にも買物時は事務所管理の個人のお財布を渡し、支払いして頂くように心がけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を利用されている方もおり、自由に電話を利用されている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんとの外出時の写真や作品を飾り、家族様にも日常の様子がわかるよう工夫している	ボランティアによる利用者の似顔絵が色紙に描かれ玄関を入ると歓迎の笑顔が並び、多くの写真は利用者の日々の会話が弾むツールとなっています。時々家具の配置替えをするなど、気分によって好みの場所で寛ぐ事が出来るよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファーや食卓もあり、好きな場所で過ごして頂ける様、支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や置物等を持ってきて頂き、居心地のよい空間作りに努めている	利用者の使い慣れた家具などを持参してもらうように伝え、好みのしつらえがなされています。家族の思いで飾り付けに工夫がされたり、趣味の習字などの作品が飾られ、安心して過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの位置等はできるだけわかりやすい工夫をしている		